【様式2】B案

学士教育プログラム学習教育目標とURGCC学習教育目標との対応関係表

学士教育プログラム名称

地理歴史人類学　学士教育プログラム

	URGCC学習教育目標	自律性 自分自身が掲げる目標の達成に向けて、自律的に学習し行動することができる。	社会性 市民として社会の規範やルールを理解し、倫理性を身につけ、多様な人々と協調・協働して行動できる。	地域・国際性 地域の歴史と自然に学び、世界の平和及び人類と自然の共生に貢献することができる。	コミュニケーション・スキル 言語（日本語と外国語）とシンボルを用いてコミュニケーションを行い、自分の考えや意思を明確に表現することができる。	情報リテラシー 幅広い分野の情報や知識を多様なチャンネルから収集し、適切に理解した上で取捨選択し、活用することができる。	問題解決力 批判的・論理的に思考するとともに、これまでに獲得した知識や経験等を総合して問題を解決することができる。	専門性 専攻する学問分野における思考法、スキル、知識等を体系的に身につけ、活用することができる。
学士教育プログラム学習教育目標	地理学・歴史学・人類学に関わる専門的な諸資料（フィールドデータ、地理情報や統計資料、文献史料等）を正確に理解し、そこから課題を発見する能力					○		○
		（URGCC学習教育目標と関連があるとして，○印を付けた理由）この文章は本教育プログラムのうち、地理学・歴史学・人類学の各専門分野の基礎的な資料・情報の理解と課題発見能力の育成を掲げており、URGCCの「情報リテラシー」「専門性」に該当する。						
	地理学・歴史学・人類学に関わる諸資料や諸情報を自ら収集分析し、課題を解決する能力	○					○	
		（URGCC学習教育目標と関連があるとして，○印を付けた理由）本教育プログラムの特徴であるフィールドワークおよび情報・文献研究は、学生の「自立性」「問題解決能力」などを必要とする実践的な教育方法であるため。						
	調査研究の成果を論文や報告にまとめ、地域社会・国際社会に向けて発信する能力		○	○	○			
		（URGCC学習教育目標と関連があるとして，○印を付けた理由）本教育プログラムでは、最終的に学生自身の研究課題について卒業論文の作成と発表を課しており、「社会性」「地域・国際性」「コミュニケーションスキル」の育成に該当する。						